



© Tomorrow Morning UK Ltd. and Visualize Films Ltd. Exclusively licensed to TAMT Co., Ltd. for Japan



ウィル&ビルを演じるのはラミン・カリムルー。圧倒的な歌唱力を武器にウエストエンドとブロードウェイの『オペラ座の怪人』『レ・ミゼラブル』で主演。日本でも人気だ

## Tomorrow Morning

### 映画「トゥモロー・モーニング」

2006年にロンドンで初演、オフ・ブロードウェイや東京でも上演された『トゥモロー・モーニング』が映画化された。

結婚を控えたカップルと離婚寸前のカップルを演じるのは、ミュージカル界の星、サマンサ・パークスとラミン・カリムルーだ。二人の圧倒的な歌声に浸れるこのミュージカル映画、脚本・作詞・作曲を手掛けたローレンス・マーク・ワイスに話を聞いた。

—— もとになった舞台版『トゥモロー・モーニング』を作ろうと思われたきっかけは？

2000年くらい、20代半ばぐらいに書き始めた作品です。グランドミュージカルを上演するにはオーケストラや何やら莫大な予算がかかってしまうので、オフで上演できる小規模な作品を作りたいと思いました。ちょうど『Songs for a New World』みたいに3、4人のキャストでできる作品が出だした頃です。私自身、もっと若い頃には自分の曲を集めて、レビューのようなショーケースをしていました。20代の作曲家が書きがちなラブソングや人間同士の関係性をテーマにして。そのうち、私は別れ、家族と子供、親について考えるようになり、そこで思いついたのが「結婚と離婚」でした。二つのカップルが同じ舞台上で、二つの時間軸で存在する。これはいいアイデアだと思いました。最初は3組、結婚前のカップル、離婚寸前のカップル、そして